

表9 2008・2009年度 都城発掘調査部(平城地区)発掘調査一覧

調査次数	調査地区	遺跡	調査期間	面積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
(2008年度)								
440次	6AAF-J	平城宮東方官衙地区	2008.11.19～2009.2.6	255m ²	奈良市佐紀町	今井晃樹	学術調査	126
448次	6AGF-H・G	平城京右京三条一坊八坪	2009.1.6～2009.3.23	1100m ²	奈良市二条大路南	林 正憲	建物建設	168
(2009年度)								
446次	6ALR-G、6ALQ-H	平城宮東院地区	2009.10.1～2010.3.31	1505m ²	奈良市法華寺町	鈴木智大 国武貞克	学術調査	136
454次	6ABR-E・F	平城宮第一次大極殿院地区	2009.4.13～2009.7.15	1556m ²	奈良市佐紀町	大林 潤	学術調査	138
456次	6AFB-M、6BKA-M	海龍王寺旧境内	2009.5.11～2009.5.18	22m ²	奈良市法華寺町	浅野啓介	住宅建設	144
457次	6BYS-J・K・N・O・P	薬師寺境内	2009.6.25～2009.11.19	201m ²	奈良市西ノ京町	浅野啓介 箱崎和久 林 正憲	防災工事	146
458次	6BKF-J	興福寺南大門	2009.7.13～2009.12.22	774m ²	奈良市登大路町	森川 実	史跡整備	154
459次	6ASA-K	平城宮北方遺跡	2009.6.1～2009.6.5	12m ²	奈良市山陵町	浅野啓介	住宅建設	124
460次	6AFC-H	平城京左京一条二坊九坪	2009.7.9～2009.7.16	21m ²	奈良市法華寺町	芝原次郎	住宅建設	124
461次	6AFC-G	平城京左京一条二坊十五坪	2009.8.5～2009.8.19	18m ²	奈良市法華寺町	森先一貴	住宅建設	124
462次	6AFF-E	平城京左京二条二坊十四坪	2009.9.7～2009.9.14	36m ²	奈良市法華寺町	馬場 基	住宅建設	124
465次	6BKF-E	興福寺旧境内	2009.12.8～2010.1.29	43m ²	奈良市登大路町	林 正憲	バス停建設	124
466次	6AAG-G・H・I	平城宮東方官衙地区	2010.1.21～2010.4.23	666m ²	奈良市佐紀町	国武貞克	学術調査	132
467次	6AED-E	興福寺旧境内	2010.2.2～2010.2.17	28m ²	奈良市東向北	海野 聰	店舗兼用住宅建設	124
468次	6BKF-I	法華寺旧境内	2010.3.10～2010.3.31	22m ²	奈良市法華寺町	中村亜希子 山崎 健	住宅建設	124
2009-7次※	6BKF-E	興福寺旧境内	2009.5.12～2009.5.15	6m ²	奈良市登大路町	国武貞克	排水管付替	164

※立会調査

表10 2009年度 都城発掘調査部(平城地区)小規模調査の概要

調査次数	遺跡	調査の概要
459次	平城宮北方遺跡	個人住宅の建て替えにともなう調査。調査地は称徳天皇高野陵の南東約160m。地表下約50cmで遺構を検出した。検出遺構は幅各20cmの平行する溝2条(中世前期の瓦質土器出土)、東西約1mの円形土坑、それよりも新しい直径10cmの小穴(柱根と中世瓦出土)。溝2条は方位にのっており、中世前期には方位にのった区画が設定されていたと考えられる。
460次	平城京左京一条二坊九坪	検出遺構は上層と下層とに分かれる。上層の遺構は現地表下50cmで検出され、柱穴1基、土坑5基、溝状遺構1基がある。下層遺構はそれより10cm下位で検出され、柱穴1基がある。出土遺物は少ないものの、古代の須恵器、土師器、瓦がほとんどで、遺構も古代のものと考えられる。
461次	平城京左京一条二坊十五坪	東西6m、南北3mの調査区で、3枚の遺構面を確認。地表下90cmの灰褐色土上面で、焼けた瓦・土器等(いずれも奈良時代後半~平安時代)を多く含み火災後の廃棄土坑とおぼしき大型土坑等を検出。下層の黄灰土上面では板石(最大長15~50cm)が多数廃棄された土坑や、南北溝・東西溝各2条を、最下部の地山面では埴輪片を含む小穴等の遺構を確認した。一条条間北小路推定地に相当するが、関連遺構は確認できなかった。
462次	平城京左京二条二坊十四坪	共同住宅建設にともなう事前調査。東西9m、南北4mの調査区を設定し、現地表下約2.2mのH=60.5mで遺構面を確認した。南北溝1条・穴1基を確認した。
465次	興福寺旧境内	バス停設置にともなう事前調査。調査地は道路の南北に分かれ、面積は北側が約23m ² 、南側が約20m ² 。北側では、地表下1.1m前後で中世の包含層を検出し、一部でその下に厚い粘土層を確認した。南側では、地表下1.3m前後で室町前期の瓦溜を、1.7m前後で古代の東西溝1条を検出した。溝は築地塀の雨落溝の可能性がある。
467次	興福寺旧境内	店舗兼用住宅の新築工事にともなう事前調査。東西8m、南北3.5mの調査区を設定した。現地表面以下約65cmから遺構検出を開始し、地表下約80cmまで掘り下げ、中世の土坑、南北溝を検出した。その後、地山まで検出をおこない、トレンチの西端で南北溝1条を検出した。この溝は条坊側溝の可能性もある。出土遺物は、瓦、土器、乳元大宝などがある。
468次	法華寺旧境内	個人住宅の建設にともなう事前調査。南北2m、東西4mの南区、南北7m、東西2mの北区を設定した。南区では、現地表面下約20cmで柱穴1基を検出し、調査区東部で現地表面下約50cmから凝灰岩を多量に含む整地層を確認した。北区では、現地表面下約20cmで整地を3層確認し、南北方向の柱穴列3棟を含む柱穴9基、礎石据付痕跡と思われる遺構1基を検出した。出土した土器や瓦より古代の遺構と考えられる。

表11 2009年度 都城発掘調査部(平城地区) 現場班編成 ※総担当者

春	夏	秋	冬
芝 康次郎(考古第一) 今井 晃樹(考古第三) 森先 一貴(考古第三:研修) 浅野 啓介(史料) ※大林 潤(遺構)	芝 康次郎(考古第一:研修) ※森川 実(考古第二) 森先 一貴(考古第三) 馬場 基(史料) 箱崎 和久(遺構)	難波 洋三(考古第一) 林 正憲(考古第三) 桑田 調也(史料) ※鈴木 智大(遺構) 海野 聰(遺構:研修)	※国武 貞克(考古第一) 中村亜希子(考古第二) 渡辺 晃宏(史料) 桑田 調也(史料:研修) 海野 聰(遺構) 山崎 健(埋文センター:研修)
総括:副所長 井上 和人	中国担当:城倉 正祥(考古第二)	写真担当:牛嶋 茂・中村 一郎(写真室)	